



沖縄県立総合教育センター

# 所報



第93号 2026年3月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 金城正樹

〒904-2174

沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号

## 令和7年度 研究発表会

～ 調査研究統一テーマ 「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」 ～

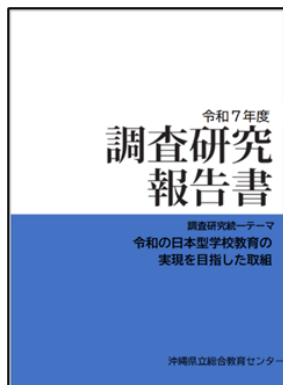
令和8年2月6日(金)に「令和7年度 沖縄県立総合教育センター 研究発表会」を開催しました。

本総合教育センターの統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」の下に、「個人・共同研究」は、各班・主事の専門性を生かし、「児童生徒の性に関する正しい理解と規範意識を育むための授業実践 一性に関する指導の手引き作成を通して」等のテーマで発表しました。「プロジェクト研究」は、『「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実」を研究テーマとして、今年度は『「個別最適な学び」と『協働的な学び』の具体化を目指した授業デザインの実践を通して」をサブテーマとして授業実践を行い、その成果と課題を発表しました。

これらの研究の報告書や成果物等は、本総合教育センターWeb ページ内のバナーから閲覧することができ、ダウンロード可能な資料もありますので、是非ご活用ください。

また、同日開催の教育講演会では、上智大学総合人間科学部教育学科教授 奈須 正裕 氏に「令和の日本型学校教育の実現を目指して」のテーマで講演をしていただき、多くの学びがありました。

令和8年度も本県及び各学校における教育課題解決の一助となるよう、調査研究及び教育講演会を企画しています。



【調査研究報告書】

【教育情報共有システム】 <http://kyosys2.open.ed.jp/>



【教育情報共有システム】

## 令和8年度 移動教育センター講座 (宮古・八重山)

宮古地区と八重山地区において、小・中学校の教員及び教育関係者を対象に、9講座を開講し、理論学習や実践事例紹介、ワークショップ等を行う予定です。多くのご参加をお待ちしています。

\*主催：本総合教育センター

\*期間：令和8年5月～6月

\*場所：各地区の教育事務所

\*要項：本総合教育センターWeb ページに掲載

\*締切：4月30日(木) 17:00



### 【開講予定講座】

- ① 小・中 特別活動
- ② 小学校へき地校複式学級担任
- ③ 小・中 特別支援教育
- ④ 小学校 算数
- ⑤ 小学校 国語 ※オンライン講座のみ
- ⑥ 図工・美術
- ⑦ 小・中 音楽
- ⑧ 国際理解・開発教育 (ESD・SDGs)  
※ 3名以上から開講
- ⑨ 小・中 特別の教科道徳

## 教育の未来を共創する～沖国大・琉大と協定締結～

本総合教育センターは、令和7年7月31日に沖縄国際大学、令和7年11月19日に琉球大学教育学部と連携・協定を締結しました。この協定は、相互の信頼関係に基づき、本県が抱える教育課題の解決を目指すものです。教員養成の場である大学と、研修・調査研究機関であるセンターが連携し、児童生徒の健やかな成長のため、下記の3点を中心に進め、教育関係職員の資質向上を図ります。

主な連携内容は、

- 1 センターの研修事業への大学教員派遣
- 2 大学の教員養成プログラムへのセンター職員派遣
- 3 初任者研修等への教員志望学生の参加 等

両大学との協力により、教育現場に新たな知見と活力をもたらし、未来を担う子どもたちの育成に寄与してまいります。



沖縄国際大学(令和7年7月31日)



琉球大学教育学部(令和7年11月19日)

## 教育の最前線へ踏み出す一歩 ～沖国大生、初任者研修を体験～

本総合教育センターは、沖縄国際大学との連携・協定に基づいた取り組みの第一弾として、令和7年11月6日「初任者研修交流体験」を実施しました。

この取り組みは、教員を志望する大学生が県立高等学校初任者研修の一部に参加し、学校現場の課題や教育実践の知見を深めることを目的としています。また、初任者にとっても、大学生との交流を通じて自身の取り組み等について、振り返る機会となりました。当日の研修は、「人権教育」「キャリア教育」の二本立てで行い、キャリア教育の中で、初任者と大学生との交流を設定しました。実施後、大学生からは、「実際の教育現場について、年齢の近い先生方から話を聞くことができ、大変有意義な時間であった」等の声が寄せられました。

大学と教育現場の架け橋となるこの交流体験を通じて、未来の教員育成と教育の質の向上を目指します。



## 中学校技術自主講座☆教育実技コラボ研修 ～マイコン機器やデジタル機器を活用してみよう～

令和7年度の自主講座は12月5日、プログラミングやデジタルファブ리케이션機器に関心のある先生方12名を対象に、マイコン機器やデジタル機器における指導力向上を目的とした研修会を開催しました。今回は琉球大学教授と県内業者による「教育実技コラボ研修」として、実践的な事例共有やスキル向上を通じて、情報の技術における授業実践に役立つ知見を深め合う相互学習の機会となりました。演習では、MicrobitやArduino、Tinkercadシミュレーション、3Dプリンタやカッティングマシンなどの操作体験を通して、受講者は授業への具体的な導入イメージを獲得し、教材研究や授業改善に役立つ内容を総合的に学ぶことができました。また、交流会では各校の工夫や課題を共有し、授業づくりを多角的に見直す貴重な時間となりました。受講者は、次期学習指導内容の改編や授業でのAI活用への関心も高く、活発に技術教育の方向性を意識した学びを進めていました。

### 参加者の感想

- ・これまで取り組んでいた実践を更にバージョンアップすることができそうだなと感じた。まだ自分自身にスキルがない部分があるので、今回の内容をさらに深めて勉強していきたい。
- ・マイクロビットは自分の勉強不足でまだ授業では活用していないのですが、今日の講座を受けて使ってみたいと思ったので、また自分で見本などを作りながら教材研究したいと思いました。
- ・アルディーノの使い方やカッティングマシン、3Dプリンタの操作など多く学ぶことができた。また、学習環境の整備の仕方など各学校での工夫の仕方など個別に相談もできて充実した内容でした。ありがとうございます。

### 自主講座の様子



Microbitでの演習



Arduinoでの演習



参加者同士の交流会

## 令和7年度 体験学習教室 ～電気に関する実験や星空観察などの体験活動～

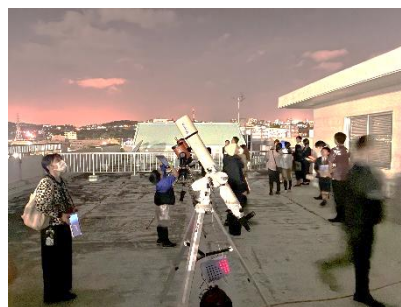
令和7年度の理科研修班の体験教室の取組として「移動おもしろ科学教室 in 久米島」「親子星空教室」を実施しました。「科学教室」では、小学校4年生以上の親子を対象に身近なものを利用した実験として、「備長炭電池作り」「ウィンドカーの製作」を行い、電気が作られる仕組みや風の力で動く原理を学びました。また、小学校4年生以上を対象とした「親子星空教室」を夏季に2日間実施し、冬季は、12月5日(金)と6日(土)に開催しました。両日とも天気にも恵まれ、屋上での星座観察では4つの天体望遠鏡や天体ドーム内の大型望遠鏡で月のクレーターや土星を観察しました。プラネタリウム室では惑星の話しや冬の大三角について学習し、部屋を移動して、星座のしおりやプラ板で星座キーホルダーを作りました。参加者からは、とても満足したという感想をいただきました。



科学教室 in 久米島の様子



親子星空教室の様子



望遠鏡やアプリで観察

## 障害者週間（12月3日～9日）啓発事業 特別支援教育 Web 展示会を終えて

毎年12月3日から9日にかけて「障害者週間」が制定されています。この期間は、国民の障害者福祉への理解・関心を深め、障害者が社会へ参加する意欲を高めることを目的に設定されており、全国各地でイベントや啓発活動が展開されています。

本総合教育センター特別支援教育班では、今年度も特別支援教育や障害に関する理解啓発を図ることを目的として、令和7年12月1日（月）から令和8年1月30日（金）にかけて特別支援教育 Web 展示会を開催しました。Web 上で特別支援学校に通う幼児児童生徒の作品や、学習で使用した教材、学校案内やリーフレットを掲載し、幼児児童生徒の学習の様子や学校の概要が見てわかるような内容です。校歌と共に、幼児児童生徒が作成した似顔絵やイラスト、木工や陶芸作品等の制作物、書道作品などが表示されるなど、各学校の幼児児童生徒の活動が思い浮かぶ Web 展示会となりました。取り組みに関しては、県の広報、テレビ、ラジオ、SNS などを通して発信したところ、1000名を超える方々に閲覧していただくことができました。閲覧された方々からは「今回、作成した資料などを見て、普段何気ない事を困難を感じる児童がいるということを再認識しました」等、社会におけるインクルーシブ教育の浸透を感じさせるコメントが見られました。また、「今年度は作品紹介について学校毎の色が出ており、見ていて楽しかったです」「各学校のHPが集約されているので、とても見やすく便利でした」等、情報共有の有効性が述べられるコメントがあり、好意的な感想が寄せられました。このような取り組みを通して、特別支援教育で学ぶ幼児児童生徒の理解が促進され、共生社会の実現に繋がっていきたいと思います。



## 特別支援教育講演会『人的環境のユニバーサルデザイン』 ～多様な子ども達と先生が輝ける、安心できる学び場をつくる～

特別な支援を要する幼児児童生徒の支援のあり方について理解を深めることを目的として、令和8年2月20日（金）に特別支援教育講演会を開催しました。講師には、教育のユニバーサルデザイン（UD）で著名な、星槎大学大学院の阿部利彦先生をお招きして、誰もが安心して学び合える授業づくりについて、学びを深めました。オンライン・オンデマンド研修でしたが、250名を超える方の参加申し込みがあり、多くの先生方と共に学び合う機会となりました。

研修では、「教育のユニバーサルデザインとは、障害のあるなしにかかわらず、より多くの子ども達にとって、わかりやすく、学びやすいように教育をデザインしていくこと、子ども達全体の学びに主眼を置いた考え方であること」などの話があり、子ども中心の教室環境づくりの必要性や関係性の大切さについて学ぶことができました。研修後半には、授業内容が分からないときや困ったときに「分からない。教えて。手伝って」など、周囲に対して助けを求める“援助要請スキル”について触れる場面がありました。「“援助を求める力”とは、自立に不可欠なスキルと捉えられます。自立とは、誰の助けも借りずに一人で生きることではなく、適切な他者の力を上手に借りて問題を解決できる力だと思っています。」という言葉は、「自立」の本当の意味について、改めて考え直すきっかけとなりました。そして、子ども達が素直に“困り感”を発信できるように、周囲が応答できる環境づくりにも留意しながら、子ども達の SOS をキャッチできるようなアンテナをしっかりと意識することが重要だと感じました。研修を通して、受講者からは、「日頃の忙しさにかまけて、忘れかけていた大切な視点に気づくことができました」「教室環境の整理、言葉かけ、援助を求める力など、多くのことを学びました。できることから取り入れていきたいです」という趣旨のコメントが多く寄せられました。研修を通して得られた学びを多くの先生方と共有し、子ども達が安心して学べる学校を創造していくために、特別支援教育の推進や研修機会の充実に、今後とも取り組んでいきたいです。

## 令和 7 年度「専門高校授業改善推進事業」 ～八重山商工、八重山農林、宮古工業、宮古総合実業～

本研修は、専門高校において、生徒に求められる資質・能力（情報活用能力を含む）を育成するため、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を推進することを目的として実施しました。特に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、指導と評価の一体化を軸に、実践的な研修を行いました。

本年度は、八重山商工高校、八重山農林高校、宮古工業高校、宮古総合実業高校の 4 校を対象に、県立学校教育課産業教育班および総合教育センター産業教育班が連携し、各校を訪問して研修を実施しました。

はじめに、「指導と評価の一体化」をテーマに、社会情勢の変化に伴う教育ニーズや、現行学習指導要領の概要を踏まえながら、評価規準を意識した授業づくりの重要性について共有しました。



全体研修の様子①



全体研修の様子②

次に、選択型研修として、以下の三つの研修内容を実施しました。

A:「思考力・判断力・表現力」では、思考ツールや R80 を活用した教材づくりを通して、生徒の思考を可視化する授業設計について

B:「主体的に学習に取り組む態度」では、OPPシートを活用した振り返りの方法を取り上げ、生徒の学習過程をどのように評価につなげるかについて

C:「ICT活用」では、教育系アプリを活用した協働的な授業づくりを体験的に学び、専門教科における ICT 活用の可能性について

最後に、全体振り返りとして、各研修での学びや成果を共有し、今後の授業改善に向けた視点を整理しました。



A:「思考力・判断力・表現力」



B:「主体的に学習に取り組む態度」



C:「ICT活用」

参加者からは、「評価を意識した授業設計の必要性を再認識した」「すぐに授業で活用できる具体的な手法を学べた」などの声が聞かれ、実践につながる研修となったことを感じました。

さらに次年度から 2 年間にわたり毎年度 10 校を対象とした出前研修と、各校代表者による研究授業を実施し、授業改善のための校内研修を継続的に支援していきます。これらの取り組みにより、専門高校における生徒の学びの質がさらに高まり、教職員一人ひとりの授業づくりがより豊かに発展していくことが期待されます。

## 大好評！「児童生徒ICT活用セミナー」

—プログラミング教育を通じた情報活用能力の育成と指導体制の充実に向け—

令和7年度の児童生徒ICT活用セミナーは、7月22日から24日の3日間にわたり開催されました。今年度は、定員40名の小学生枠に81名の応募、定員20名の中学生枠に38名の応募があり、いずれも高い関心が寄せられました。セミナーでは、小学生は「制御学習プロロボ」を用いたプログラムで動く模型の操作体験を、中学生は「Roblox (ロブロックス)」という3Dゲームの制作を通して、プログラミングの基礎を学びました。

中央教育審議会における次期学習指導要領に向けた議論では、プログラミングを含む「情報活用能力」が「学習の基盤となる資質・能力」として、より明確かつ強力に位置づけられることが確実視されています。小学校における情報教育は、これまで「プログラミング的思考(論理的思考)」の育成が主眼でしたが、今後は「探究的な学び」との融合が一層重視される見込みです。中学校においては、高校の「情報I」への接続が強化され、社会課題に対し、技術とデータを組み合わせて解決策を提案する力の育成が求められます。

このプログラミング教育を担う体制について、中学校では専門知識を有する技術科の教員が中心となります。しかし、小学校では必ずしも専門的知識を有しているわけではない学級担任が指導を担わなければならないと、多くの先生方が不安を抱えているのが現状です。そこで、次年度は、この「児童生徒ICT活用セミナー」に小学校教員の参加も募り、児童生徒が学ぶプログラミング教育の一端を体験していただくことで、小学校教員の指導力向上の支援を図りたいと考えています。



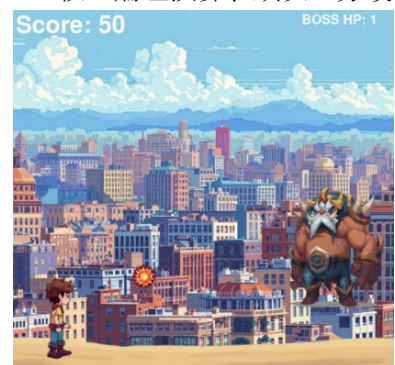
## 生成AI時代のプログラミング教育の転換

～「人が教える」から「AIと共創する」学びへ～

ChatGPTなどの生成AIの登場により、プログラミング教育の在り方が大きく変わろうとしています。これまで「人が機械に命令する」ことを学んできたプログラミング学習が、今や「AIと対話しながら解決策を共創する」学びへと発展しています。

学校現場では、校務や授業で生成AIを活用する事例が多く見られるようになりました。10月に実施した教科「情報」実践講座Bでは、北中城高校での多様な実践事例を紹介していただきました。書籍紹介の中では、プログラミング初心者だった大学生が、ChatGPTを使って「1日1本アプリを作成・SNSに投稿」する取り組みを続け、最終的にシステムエンジニアとして就職したという事例も紹介されました。

情報Iでは、プログラムの基本である変数・データ型・配列、算術・比較・論理演算、順次・分岐・反復構造、関数・ライブラリ・APIなどを学習します。しかし、上の事例からも分かるようにこれらの基礎を押さえた上で、生成AIを活用し、開発の工程において重要なのは要件定義を固めるためのヒアリング力やシステム設計などの上流工程であることを改めて認識できます。また、情報Iの共通テスト第3問で出題されているプログラミング問題をGeminiに解説させる方法や、Pythonのソースコードを生成して簡単なゲーム制作を行う方法なども紹介しました。生成AIは、プログラミングの手法に限らず日進月歩、まさに秒進分歩で発展しています。今後も最新の動向を踏まえ、研修内容のアップデートに努めていきます。



Gemini を利用したゲーム制作の例

## 令和7年度 後期・1年長期研修研究報告会

令和7年度後期・1年長期研修研究報告会が3月5日～6日の日程で、本総合教育センターにて開催されました。長期研修員23名が各自のテーマに基づき、教育課題の解決に向けて熱意のある報告を行いました。この研究報告会から、研究成果が実りある研究だったことが伝わってきました。この研究成果を教育現場でこれから還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。

### 生徒と共に教師も「探究」を続けたい

理科研修班 県立球陽高等学校 教諭 瀬良垣 守秀

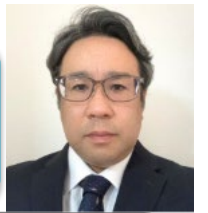


「探究の過程」を取り入れ、「理科の見方・考え方」を意識的に働かせる単元デザインをテーマに研究させていただきました。授業を振り返る中で課題にも向き合いながら、多くの学びと発見を得ることができ、充実した日々となりました。素晴らしい環境のもと貴重な時間をいただけたことに、心より感謝申し上げます。所長や班長、担当主事をはじめ多くの皆様には、折に触れて温かく的確なご助言・ご指導をいただき、本当にありがとうございました。

検証授業を通して実感したことがあります。それは、教師が探究し続ける姿勢は、生徒の主体的な学びにつながることです。今後も生徒と共に学び、「探究」を続けてまいります。

### ICT教育を手がかりに、問い続ける授業づくり

IT教育班 県立那覇みらい支援学校 教諭 仲田 幸一朗



本センターでの1年間にわたる理論研究と実践、そしてその過程で出会った方々との交流を通して、今後の教職人生の糧となる多くの学びを得ることができました。研修で学んだ理論は、授業の手立てを考える際の支えとなりました。検証授業では、担当教師に代わって教室に入ることもあり、生徒は不安そうな様子を見せながらも、懸命に授業に取り組んでくれました。限られた関わりの中で、生徒一人ひとりの頑張りが心に残り、私自身が生徒に支えられていたと感じています。長期研修員として得た学びや、本研修で活用したCanvaも生かし、目指す学びは何かを問い続け、今後の授業実践につなげていきます。最後に、助言をしてくださった班長・主事の皆さま、支えてくれた研修員の仲間、そして現場で温かく支えてくださった那覇みらい支援学校の先生方に心より感謝申し上げます。

### 新たな視点とともに歩み始める次の一歩

産業教育班 沖縄県立美里工業高等学校 教諭 比嘉 秀樹



長期研修を通して、教職から一時離れ、研究に専念するという貴重な経験を得ることができました。これまでの自身の授業を振り返る中で、柔軟性に欠け、知らず知らずのうちに硬直化した授業実践を繰り返していたことに気づき、自身の課題として受け止める機会となりました。教育の意味を新たな視点から捉え直し、多様な考え方や価値観があることを学ぶことができ、教職人生の新たなスタートを切る契機となりました。産業教育班では、思いやりのある主事や研修員に囲まれ、安心して研究を深めることができました。多くの指導や助言をいただいた主事の皆様に感謝しつつ、研修で得た学びを自分自身の力へと変え、今後は生徒の学びに丁寧に還元し、教育に貢献していきたいと考えています。